



◆当面する重点作業

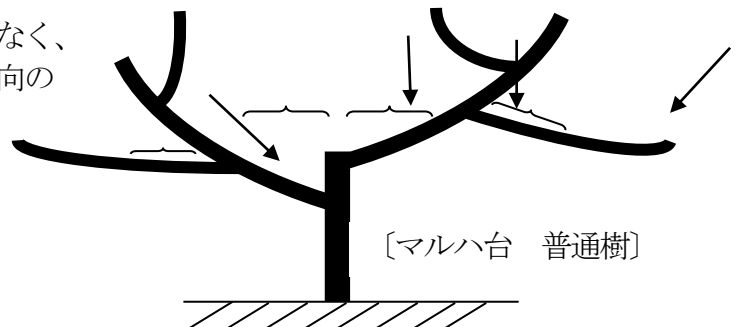
1. 日焼け防止対策として、葉摘みや支柱立ては果実温が十分に上がった午後から実施する。また、徒長枝の切りすぎ、葉の摘みすぎに注意する。
2. 定期的にかん水を実施する。
3. スモモヒメシンクイの被害が発生し始めている。防除間隔を空けすぎず、定期的に防除する。被害果がある場合は適切に処理を行う。
4. 炭そ病の果実病斑が見られたら、早急に採って土中に埋める。
5. 鳥害対策を工夫して行う。シナノリップなど特に着色の良い品種は重点的に対策を図る。
6. 早生種の収穫を適期に行う。早獲りしないよう食味を確認してから収穫を始める。

◆かん水・排水対策について

1. 降雨が無い場合は、20mm程度の定期的なかん水を行う。
2. 降雨が多い場合は排水対策を行い、根腐れを防ぐ。
特に、新しい化栽培は滞水に弱いので園や葉が黄色くなって落葉している園では注意する。
3. 梅雨が明け後は、水分競合を防ぐため短く刈り込む。ただし土が見えるほど刈り込まない。

◆新梢管理・樹体への日焼け対策について

1. 主枝、垂主枝や側枝基部の徒長枝（新梢）は、焼けが発生しやすく、全部欠き取るのではなく、30cmに1本位で千鳥に残す。特に北～東方向の骨格枝は発生しやすい。
⇒ 計画的に切り（欠き）取る。
2. 着果不足で樹勢の強い樹は、徒長枝をこの時期切らずに無駄な養分を発散させる。
お盆の頃に切り取る。
3. 殺ダニ剤散布に合わせ、徒長枝（新梢）の処分をする。⇒ 30cmに1本位ずつ千鳥で適宜に残す。
4. 図の矢印部分（主枝・垂主枝の基部）の新梢は強くなりやすいので欠き取る。



◆早生品種の鳥害・ヤガ対策について

1. 基本的には、防鳥ネットを張り、鳥害・ヤガ害を防ぐ。また糸等を工夫して利用する。
2. 被害にあった果実を取り除き、呼び寄せないようにする。
3. 鳥害には、鳥よけ爆音機やバードガードを使用する。使用する場合は周辺の環境に留意する。
特に、住宅地付近での使用や早朝・夜遅くの使用はしない。住宅地より200m以上離れた場所を使用する。
4. ヤガは山手で夜温が高いと発生する。対策として、ネット設置やヤガ除けライトなどを使用する。

◆第 1 1 回薬剤散布について

1. 散布日：8月6日(水)～8月10日(日) **収穫中の品種は、散布後 72 時間経過すれば、収穫可能。**

2. 調 合 量：水1000ℓ当り ※混用順に記載 散布日 月 日

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
サムコルフロアブル	40mℓ	シンクイムシ類・ハマキムシ類・キンモンホリガ	前日
オーソサイド水和剤	125g	黒星病・斑点落葉病・すす斑病・ すす点病・輪紋病・炭そ病・褐斑病	前日
オマイト水和剤	133g	ハダニ類	3日

3. 散布量：10a当り⇒600ℓ以上、

4. 留意事項

- ①果面の汚れ防止とハダニ類への効果を高めるため、「展着剤」を機能性展着剤スカッシュ 1,000 倍（水 100ℓ 当り 100mℓ）に代えて使用してもよい。
- ②殺ダニ剤散布となるので、散布3～5日前に下草刈を行うか、除草剤により雑草を処理して、ハダニを樹上に上げてから散布する。また、十分な散布量とし、散布ムラのないようにする。
なお、オマイト水和剤は、高温時の散布は薬害の発生が心配されるので避ける。
- ③収穫終了後の樹へも必ず散布する。

◆炭そ病特別薬剤散布について

1. 散布時期：8月中旬頃（第11・12回の間） **収穫中の品種は、散布後 24 時間経過すれば、収穫可能。**

2. 調 合 量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。 散布日 月 日

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
オーソサイド水和剤80	125g	炭そ病	前日

3. 散布量：10a当り⇒500ℓ以上

4. 散布上の留意事項

- ①降雨が多い場合は、炭そ病対策として第11・12回薬剤散布の中間で、特別散布する。
なお、年間使用回数年6回までに注意する。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

- 1. 対策時期：継続して月に1回程度
- 2. 使用資材：

資材名	倍率	1000ℓ当り使用量
ストピットⅡ	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

- 3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。
ストピットⅡは、白くなるので収穫前の使用は控える。

◆シナノリップ収穫出荷会講習会の開催について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
8月 1日	金	午後 2:00	篠ノ井西部流通センター	徳武
			真島フルーツセンター	根津
8月 4日	月	午前11:00	若穂果実流通センター	寺澤

◆サンつがる収穫出荷会講習会の開催について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
8月 8日	金	午後 2:00	真島フルーツセンター	根津
8月10日	日	午前11:00	若穂果実流通センター	寺澤
		午後 2:00	篠ノ井西部流通センター	徳武

◆サンつがるの収穫前管理について

着色には、夜温18℃以下2日以上、果実糖分11度以上（糖度より温度が優先）が望ましい。

1. 葉摘み、玉回し 早生種は、収穫7～14日前（8月）から開始が目安。

①高温乾燥により、日焼け発生が多く見られているため注意する。日当たりの良い部位（特に南～西）はあまり実施しない。日当たりの悪い部位、曇天が続く場合は、着色のため行う。

②実施する場合は、乾燥が日焼けを助長するため、かん水を行って土壌水分を高めておき、果実温の高まった日中に行う。

③日焼け果は、むやみに除去しない。除去する事により、枝が上がり等新たな日焼け果が発生する場合がある。腐敗しなければ、収穫期まで、樹上に置いておく。

④実施方法は、肩に着色し、葉影がみえるようになったら、果実に密着している果そうの葉を軽く摘む。葉でデンプン（糖度）とアントシアニン（赤い色素）を作るため、強い葉摘みは、光合成が劣り、かえって着色が悪くなり、日焼けを起こす。特に新わい化・高密植栽培では影響が大きい。片側の着色が、半分位着いた時点で玉回しを行うと色戻りが少ない。

2. 病害虫対策として、炭そ病・輪紋病・シンクイムシ類は、発見次第除去し、処分する。